

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

# 終末期がん患者の輸液療法に関するガイドライン 2013 年版

特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン委員会 (委員長: 太田恵一郎 湘南鎌倉総合病院オンコロジーセンター)

金原出版、2013 年 1 月 31 日 第 1 版第 1 刷発行

## ■1 漢方薬

疾患:

がん悪液質

有効性に関する記載ないしその要約:

がん悪液質の概念と最近の動向の代謝制御・栄養管理の実際、その他の治療の項に、下記の記載がある。

『各種薬剤や栄養素の他に、インスリン、サリドマイド、カンナビノイド、ハーブ療法 (漢方含む) などによる悪液質改善の報告や、グレリンなどの食欲不振の阻害作用を有する薬剤などが開発されつつある。しかし、現時点ではいずれも限定的なエビデンスにとどまっており、各種ガイドラインで使用が推奨されるには至っていない。』